

(別紙様式2)

普及指導員調査研究報告書

所属名：美祢農林事務所農業部

担当者名： 林 克江

課題名 はなっこりーの長期・安定出荷対策

1 調査研究チームの構成
林 克江、西見勝臣

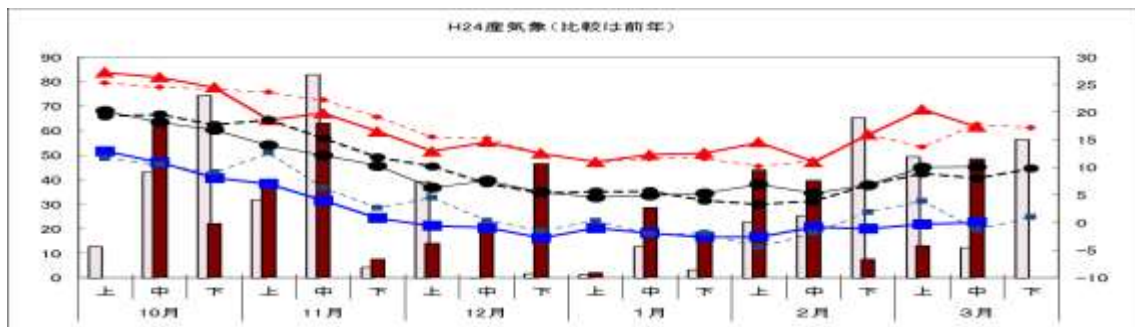
2 課題の目的
新たに育成されたはなっこりーLは、従来系統に比べ晩生で10月中旬定植で2月中旬からの出荷となるが、市場からは12月下旬から2月上旬の厳寒期における安定出荷が求められている。
そこで、はなっこりーLを利用した厳寒期の収量確保のため、宇部市楠地区において定植の前進化による作型の検討を行い、年内から春までの長期安定出荷に向けた検討を行う。

3 調査研究期間
平成24年9月～平成25年2月

4 調査研究の対象地域・場所
宇部市万倉

5 調査研究方法の概要
(1) 供試品種 はなっこりーL (晩生)
(2) 定植日 9月25日、10月1日、10月10日
(3) 栽培概要
畝幅 160cm、株間 38cm の2条植え、マルチ栽培
施肥：ユートップ20号 20kg/10a
炭酸苦土石灰 12kg/10a
BM重焼燐 5kg/10a

6 結果の概要、成果
(1) 気象の概要 (アメダス宇部、実線：H24産、点線：H23産)



定植後の気温は H23 産より低く推移したが、1 月以降は高めであった。降水量は H23 産より多かった。H24 産は 3 月の気温が H23 産に比べ高かったため 2 次側枝まで収穫が可能となり、3 月以降の出荷量が昨年に比べ増加して販売単価が下がった。

(3) 調査結果

慣行の 10 月 10 日定植は 2 月からの収穫となった。10 月 1 日定植では、1 月から収穫開始となり、2 月中旬に 1 次側枝の収穫株率が 5 割となった。9 月 25 日定植では 12 月から収穫が可能となり、1 月下旬に 1 次側枝の収穫株率が 5 割となった。

表 1 定植時期の違いによる頂花蕾除去株率 (%)

	頂花蕾除去株率(%)				
	11 月 19 日	12 月 18 日	1 月 23 日	2 月 18 日	3 月 18 日
9/25 定植	20	90	90	100	100
10/1 定植	0	50	90	90	100
10/10 定植	0	0	70	70	100

表 2 定植時期の違いによる 1 次側枝収穫株率 (%)

	1 次側枝株率(%)			
	12 月 18 日	1 月 23 日	2 月 18 日	3 月 18 日
9/25 定植	10	50	90	100
10/1 定植	0	30	50	90
10/10 定植	0	0	10	100

表 3 定植時期の違いによる 2 次側枝収穫株率 (%)

	2 次側枝収穫株率(%)		
	1 月 23 日	2 月 18 日	3 月 18 日
9/25 定植	0	0	40
10/1 定植	0	0	40
10/10 定植	0	0	80

(4) 考察

宇部市楠地区では、はなっこりーL の定植時期を慣行の 10 月上中旬から 9 月下旬に前進化することにより年内 12 月から収穫が可能となり、厳寒期の出荷量の増加が期待できることがわかった。

県では平坦部・沿岸部での厳寒期の収穫は、はなっこりーME の利用が推奨されているが、内陸部の楠地区では、ME より耐寒性を持つ L での本作型が有効であることが示唆された。

5 月までの収穫のため今回、収量調査を行っておらず、出荷終了後確認を行う。

7 今後の問題点

単年度の試験成績であるため継続した調査が必要である。

8 普及活動上の留意点

中山間地域では年によって寒害被害が大きいいため、9 月下旬～10 月中旬定植による作型分散が必要である。